

## 研究公開文書

研 究 名	腹腔鏡下結腸癌手術症例における体腔内吻合の検討
研 究 の 概 要	結腸癌における腹腔鏡下手術の消化管吻合は小開腹創から腸管を出して行う体腔外吻合が一般的である。しかし、腸間膜脂肪が厚い場合や腫瘍の位置などによって体腔外に腸管を引き出すことが困難な場合がある。現在の消化管の吻合は器械を用いた吻合が主流であり、体腔外での吻合が難しい腹腔鏡下胃癌手術では、体腔内吻合はすでに標準的な手技となっている。結腸癌における体腔内吻合に関しても、創長短縮に伴う創痛の軽減や創感染の減少などの長所が多数報告されている。当施設における体腔内吻合症例を検討し、体腔内吻合の優越性や安全性を検証することを本研究の目的とした。
研 究 対 象	当施設で腹腔鏡下体腔内吻合を施行した結腸癌の方。
研 究 責 任 者	外科 清家和裕
研 究 実 施 期 間	研究許可日～2024年12月31日
連 絡 先	外科 清家和裕 小田原市久野46番地 小田原市立病院 0465-34-3175